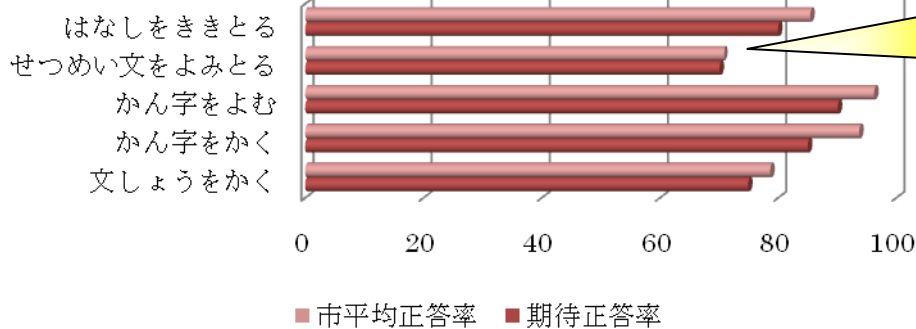


国語科 小学校1年

1年生の内容の正答率



説明文：事柄の順序を考えながら内容を読み取る問題では、期待正答率を12ポイント以上下回っている設問があります。

◇分析◇

I 説明文

- 1 出題のねらい 事柄の順序を考えながら内容を読み取ることができる。
- 2 正答率が低い要因 (2-(1)正答率62.4% 期待正答率75.0%)

聞かれたことを自分の経験だけから考える傾向が強く、文章から離れてしまうことが少なくない。また、説明的な文章を読み、事柄の順序を押さえながら内容を的確に押さえる力が十分身に付いておらず、問題の形式に慣れていないことも要因の一つと考えられる。

『読むこと』 事柄の順序を考えながら内容をとらえる学習を工夫しましょう。

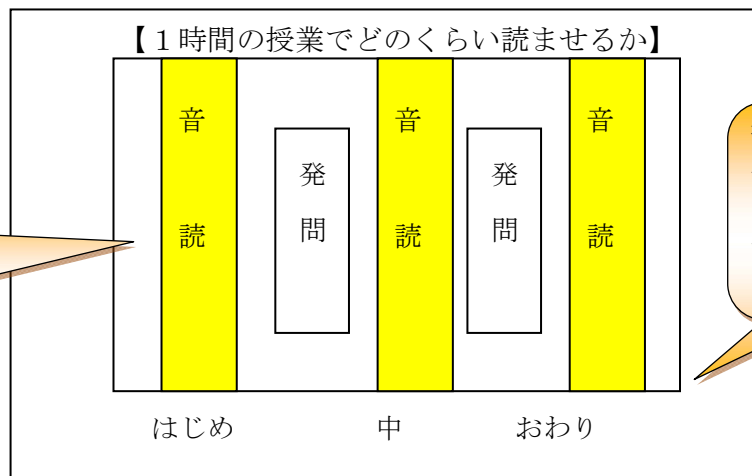
要因を踏まえた指導のポイント

- ・「～さんになったつもりで、質問を考えてみましょう。」という問いの答えは、自分の経験からだけでなく、文章の言葉を基に考えさせる。
- ・低学年はまだ自分の生活経験を中心に考えることが多い。身近な話題であればあるほど文章を基に考えさせていく。
- ・発問づくりをする際は、単なる確認ではなく、解釈を伴う発問にする。
- ・読み取ったことを基に、動作化などをさせる時は、なぜそのような動きを考えたのか、その理由を言葉で言わせたり、どの文章から考えたのかを言わせたりするようにする。
- ・1時間の授業中で、「読みひたり」「書きひたり」「聞きひたる」活動を繰り返し行う。

◇授業改善例◇

音読は読みの基本

授業の始めだけではなく、1時間の中に、計画的に音読を取り入れましょう。



授業の最後に今日学習したところを音読するのも効果的です。

～「どうぶつのあかちゃん」(光村図書1年下)の実践例～

(1)書かれている事柄のだいたいを読み取る。(音読で読み取る)

めあて 動物の赤ちゃんについて説明している内容のだいたいをとらえる。

【音読のさせ方】 範読→指名音読→一斉読

範読

- ・教師の範読で授業を始めます。CDよりも教師の読みで!
- ・教師の読みが、子供の読みのモデルになります。

指名読

- ・順番に音読をさせます。同じ部分を何人かに読ませます。
- ・教師は、一人一人に読みの評価を与えます。それが全体への指導の言葉になります。

一斉読

- ・範読、指名読を聞いていた子供たちは、自分たちも読みたくてたまりません。
- ・ゆったり読ませずに、ある程度のスピードでテンポよく読ませます。

『読みひたる』
十分に読ませた後、読み取る学習に入りますよう。十分な音読が確かな読み取りにつながります。

『読みのめあて』
何のための音読なのか、目的をもたせてから音読させましょう。

(2)①書き表し方(順序)に着目しながら読み取る。(ノートで読み取る)

めあて ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの様子を読み取る。

発問 「ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんはどこがどのようにちがうでしょう」

【板書の例】

ライオン	ようす一(大きさ)	・子ねごろい ・やぎごろい
しまうま	ようす二(目や耳)	
	ようす三(そのほか)	

『順序について』
・あかちゃんのとぎ
・歩けるようになるまで
・食べ物についてなど
読み取るポイントを示す。

『マスから行ノートへ』
・マスは書写のため。文を書かせるためには、なるべく早い段階で行ノートを使わせましょう。

②書き表し方からどのようなことを読み取るか。(発問で読み取る)

【ライオンの赤ちゃんの様子を読み取らせる発問・指示】

発問・指示 赤ちゃんはよわくておかあさんにあまりにいていません。
赤ちゃんはよわよわしくておかあさんにあまりにいていません。
どのように違うかノートに書きましょう。

【しまうまの赤ちゃんを読み取らせる発問】

発問 しまうまの赤ちゃんは、生まれたときに、もうやぎごろい(大きさ)があります。
“もう”という言葉からどのようなことがわかりますか。

『くらべる発問』
・くらべる発問はどの子にとっても考えやすい発問です。
・自分の考えをノートに書かせましょう。

(3)読み取ったことを活用する。(学んだことを生かす)

めあて 他の動物の赤ちゃんのことを調べてカードに書く。

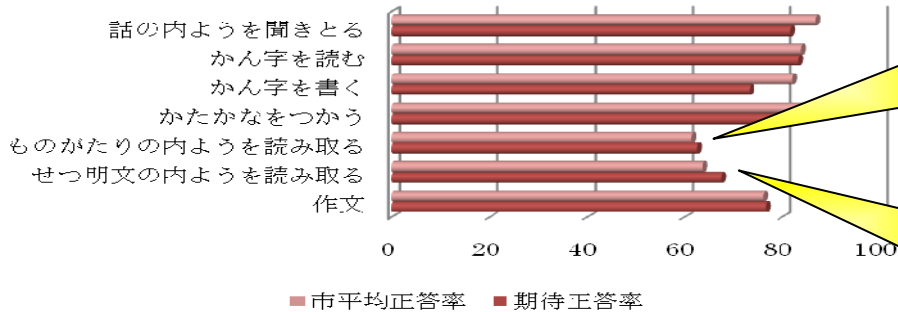


①先生が実際にいくつか動物の本を使って、書いて見せましょう。
↓評価の観点に役立ちます。
②児童の実態に合わせて文章の長さを具体的に示しましょう。

・生まれたばかりのようす
・大きくなっていくようす

国語科 小学校2年

2年生の内容の正答率



I 物語文：場面の様子などについて、想像を広げながら読み取る問題では、約13ポイント下回っている設問があります。

II 説明文：時間や事柄の順序を考えながら、内容を読み取る問題では、約8ポイント下回っている設問があります。

◇分析◇

I 物語文

- 出題のねらい** 物語文を読み、場面の様子などについて想像を広げながら、まとめることができる。
- 正答率が低い要因** (4-(2) 正答率 46,9% 期待正答率 60,0% 4-(4) 正答率 28,8% 期待正答率 40,0%)
場面の様子や登場人物の心情を読み取る問題である。想像する手がかりとなる言葉や表現に気付かない児童が多かったと思われる。文章全体を繰り返し読み、効果的な言葉の使い方や表現を探したり、自分の読み取ったことを表現したりする学習が必要であるとする。

II 説明文

- 出題のねらい** 時間的な順序、事柄の順序を考えながら、内容を読み取ることができる。
- 正答率が低い要因** (5-(2) 正答率 53,9% 期待正答率 60,0% 5-(3) 正答率 77,0% 期待正答率 85,0%)
直前にある言葉や、印象に残る言葉にとらわれ、順序や内容を整理できなかったと思われる。書かれている内容や段落の関係を確かめながら文章を読むことが必要であるとする。

◇授業改善例◇

物語文 言葉や表現を基に場面の様子や心情を読み取らせましょう。

要因を踏まえた指導のポイント1 使われている言葉の意味や使い方に着目させ、様子や気持ちを読み取らせる。

～「お手紙」(光村図書2年下)の実践例～

めあて 手紙の内容を知ったがまくんの気持ちを読み取る。

発問 「『とても いいお手紙だ。』と、がまくんが言いました。どんなところがいいのでしょうか。がまくんの気持ちになって手紙の言葉を見つけましょう。」

- 反応**
- 「親愛なる」と書いてある。がまくんを大切な友達だと思って、かえるくんが書いたから、がまくんはうれしかった。
 - 「親友」は、一番の友達ということだから、かえるくん「きみの親友」と書かれて、がまくんはうれしかった。

「とても いいお手紙だ。」という表現について考えさせましょう。「親友」「親愛なる」「きみ」「ぼく」の使い方や意味に着目させ、読み取ったことを書かせたり、話し合わせたりしましょう。

要因を踏まえた指導のポイント2

出来事や会話文、行動から心情を想像させる。

めあて 手紙を待つがまくんとかえるくんの「とてもしあわせな気持ち」を想像する。

発問 『とてもしあわせな気持ち』ですわっているとき、ふたりはどんなことを思っているでしょう。ふたりの行動や会話を基に考えましょう。」

反応

- がまくんは、手紙が初めて届けられるので、早く見たくてたまらない。外にすわって四日間も待たなければならないが、親友のかえるくんと一緒だから楽しかった。
- かえるくんは、自分が書いた手紙をがまくんがとても喜んでくれたので、同じくらいうれしくなった。がまくんの楽しそうな様子を見て、しあわせな気持ちになっている。

これまでの出来事、手紙の内容、会話文、登場人物の行動を結びつけて、心情を想像させましょう。

説明文 順序に気を付けて整理しながら文章を読ませましょう。

要因を踏まえた指導のポイント

書かれている事柄の順序を整理している言葉に着目させる。

～「一本の木」(光村図書 2年下)の実践例～

めあて 文章を読んで木のかき方をまとめる。

発問1 「ムナーリさんはどんな順番で木をかいていますか。」

反応

ノートの記述

めあて
まず
みきをかく
そのつぎに
えだをかく
つぎに
また
えだをかく
同じようにして
だんだん
分かれていく
えだをかく

段落のはじめの言葉に着目し、整理させましょう。

要因を踏まえた指導のポイント2

前に書かれている事柄と結びつけて読み取らせる。

めあて 新しいえだをどのように書けばよいかを読み取る。

発問1 『こんどは』ではなく、『こんども』と書いてあるのはどうしてでしょうか。」

反応

- 「こんどは」は前とはちがう場合に使う。「こんども」は前に同じことがあって二回目のときに使う。
- 前にかいた枝と比べているから、「こんども」と書いている。

「こんども」に着目させ、比較して読ませましょう。

発問2 「新しい枝は、どうかけば上手にかけるでしょうか。前の枝と比べて説明しましょう。」

反応

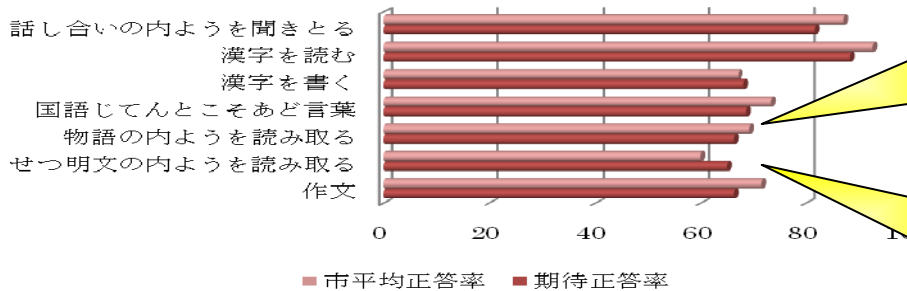
- 二つに分かれてかく。長さは前の枝より短い。
- 太さは前の枝と比べると半分くらいになる。
- 新しい二本の枝の長さは同じくらいで、前の枝と比べると短くて細い。

「長さ」「太さ」「細い」「短い」「太い」「～より」「半分」など板書し、語彙が増えるように指導しましょう。

同じところ、違うところを明確に説明させましょう。

国語科 小学校3年

3年生の内容の正答率



I 物語文：場面の情景を，叙述を基に想像しながら読む問題では，期待正答率を約 14 ポイント下回っています。

II 説明文：目的に応じて，細かい点に注意して文章を読む問題 2 問で，期待正答率を下回っています。

◇分析◇

I 物語文

- 1 出題のねらい 場面の情景を，叙述を基に想像しながら読むことができる。
- 2 正答率が低い要因 (4- (1) 正答率 66.5% 期待正答率 80.0%)
場面の様子を表している言葉を選択肢から選ぶ問題である。場面の様子をとらえ，想像するための手掛かりとなる叙述に着目して読むことが十分にできていないと考えられる。

II 説明文

- 1 出題のねらい 目的に応じて，細かい点に注意して文章を読むことができる。
- 2 正答率が低い要因 (5- (1) 正答率 56.7% 期待正答率 70.0%)
(5- (4) 正答率 43.4% 期待正答率 50.0%)
説明文が提示している問題とその原因について読み取る問題である。叙述に基づき，説明されている事物相互の関係を整理しながら読むことができていないと考えられる。

◇授業改善例◇

物語文 叙述を基に想像しながら読む学習を工夫しましょう。

要因をふまえた指導のポイント 場面のうつり変わりや叙述の違いに気を付けながら，登場人物の様子や心情がどのように変化するのか考える発問を工夫する。

～「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書3年下)の実践例～

めあて 場面を比べて，叙述の違いに着目しながら登場人物の様子や心情を想像して読む。

発問「第1場面と第4場面のかげおくりの様子をくらべて，お父さんの言葉を工夫して読みます。それぞれどのような気持ちを込めて読むといいですか。考えたことを発表しましょう。」

反応

- 第1場面のお父さんは，自分が戦争に行った後，家族がどうなってしまうのか心配だったから，元気がなくてつぶやいていると思う。そういう気持ちを込めて読む。
- 第4場面では，一人ぼっちなちいちゃんにむかって天国のお父さんが話しかけていると思う。「空を見てごらん。ちいちゃん一人じゃないよ。お父さんがそばにいるよ。」と励ましている。だから明るい声で読んだ方がいい。

「青い空を見上げたお父さんが，つぶやきました。」
「お父さんの声が，青い空からふってきました。」
二つの場面の叙述の違いに着目させて，お父さんの心情を想像させましょう。

～「モチモチの木」(光村図書3年下)の実践例～

めあて 叙述に着目して、登場人物の様子や心情を想像して読む。

発問・指示 「真夜中の道をなきなき走りながら、豆太はどんなことを考えていたのだろう。3～5行で書きましょう。」

反応

- こわいよう。いたいよう。暗い道からおばけがでてきたらどうしよう。・・・それに、じさまが死んでしまったらどうしよう。やさしいじさまが死んでしまうなんてぜったいいやだ。
- こんな夜中に一人でちゃんと医者さまのところまで行けるかな・・・でも、じさまがいなくなったら、おいらは本当にひとりぼっちになっちゃうよ。じさま、おいらが医者さまを連れてくるまで死なないで。

「なきなき走った。」
「なきながら走った。」
二つの叙述の違いを比べさせ、豆太の様子はどう変わるか考えさせましょう。豆太の様子の違いに着目させながら、心情を想像させましょう。

説明文 目的に応じて、細かい点に注意して読む学習を工夫しましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 書かれている内容を大きくとらえる学習をした後で、読みの視点を明確にし、細かい点に注意しながら読む学習を位置付ける。

～「すがたをかえる大豆」(光村図書3年下)の実践例～

めあて なつとうとみその作り方について、相違点に気を付けながら詳しく読み取る。

指示1 「なつとうとみその作り方についてワークシートにまとめ、同じ点や違う点をくらべましょう。」

違う点を表にまとめさせましょう。児童の実態に合わせて、観点を考えるところから挑戦させましょう。



ワークシート例

みそ	なつとう	
コウジカビ	ナットウキン	小さな生物
大豆 にてつぶした	むした大豆	大豆のすがた
暗い所 風通しのよい	場所 あたたかい	おく場所
一年 半年から	一日近く	期間

ちがうところ
同じところ
小さな生物の力をかりて、ちがう食品にする

指示2 「なつとうとみその作り方を、それぞれ一文にまとめましょう。」

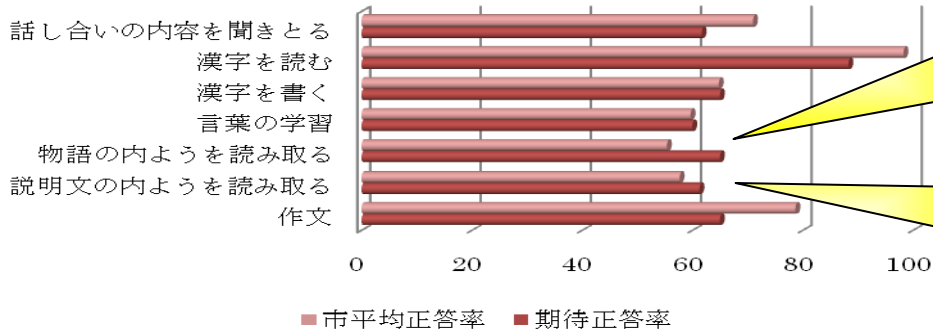
反応

- なつとうは、むした大豆にナットウキンをまぜて、暖かい場所に一日近くおいて作る。
- みそは、にてつぶした大豆にコウジカビをまぜて、風通しのよい暗い所に半年から一年おいて作る。

違いを表している大事な言葉を使って、一文にまとめることを意識させましょう。

国語科 小学校4年

4年生の内容の正答率



I 物語文：叙述を基に想像して読む問題では、期待正答率を約18ポイント下回っている設問があります。

II 説明文：内容を大きくまとめて読む問題では、25ポイント下回っている設問があります。

◇分析◇

I 物語文

- 1 出題のねらい 登場人物の気持ちの変化や場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。
- 2 正答率が低い要因 (4-(1)正答率40.6% 期待正答率60.0% (3)正答率47.6% 期待正答率65.0%)
叙述を基に、場面の情景を想像し、文章を正しく並べる問題や登場人物の気持ちの変化をとらえる問題に課題が見られる。叙述から省略された主語をとらえ、情景を想像する力や登場人物の気持ちをどのように表現しているかを読み取る力が十分に身に付いていないと考えられる。

II 説明文

- 1 出題のねらい 目的に応じて、内容を大きくまとめながら読むことができる。
- 2 正答率が低い要因 (5-(3)正答率35.0% 期待正答率60.0%)
「このように」がどの段落をまとめているかをとらえる問題に課題が見られる。中心となる文をとらえる力や段落相互の関係を理解する力が十分に身に付いていないと考えられる。

◇授業改善例◇

物語文 叙述を基にしながら想像して読む学習を工夫しましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 文中の言葉に着目させ、場面の情景や登場人物の気持ちを想像させる。

～「一つの花」(光村図書 4年下)の実践例～

めあて ゆみ子や両親の様子や気持ち、戦中と戦後の場面の様子を、文中の言葉に気を付けて想像しながら読むことができる。

(1) 文中の言葉「一つだけのお花」から、登場人物の気持ちを想像する。

発問・指示 『ゆみ子のにぎっている一つの花を見つめながらー。』に続けて、お父さんが考えていたことを3行から5行程度で書きましょう。

反応

- これが最後に見るゆみ子の笑顔になるかもしれないね。ゆみ子、これからどんなことがあっても、母さんと二人でなんとか生きのびておくれ。
- ゆみ子。まだこんなに小さいお前をおいて行かなければならない。もう、そばで見守ることはできない。この一つの花のように、たった一つだけの命だ。大切にしておくれ。

(2) 場面を対比して情景を想像したり、題名とつながる言葉に着目して、登場人物の思いを想像したりする。

発問1 「戦中と戦後の場面を比べて、戦後のゆみ子とお母さんの暮らしぶりを想像しましょう。」

- 〈ヒント〉 対比の視点 ○登場人物 ○生活の様子 (家 コスモスの花 食べ物 ミシン)
○ゆみ子の様子 (年齢 スキップ 一つだけ 小さなお母さん)

発問2 「一つの花に思いをたくしたお父さんは、今のゆみ子をどのように思っているでしょう。」

反応

- コスモスのように、どんなにつらくても明るく元気に育ってくれた。
- これからも、たくましくお母さんと助け合いながら生きてほしい。

説明文 段落相互の関係を考えながら読む学習を工夫しましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 形式段落の要点をおさえさせ、段落相互のかかわりを考えさせる。
～「アップとルーズで伝える」(光村図書4年下)の実践例～

めあて それぞれの段落が文章全体の中でどんな働きしているかをとらえる。

発問 「③、⑥段落は前の二つの段落とどのような関係でつながっているでしょう。」

反応

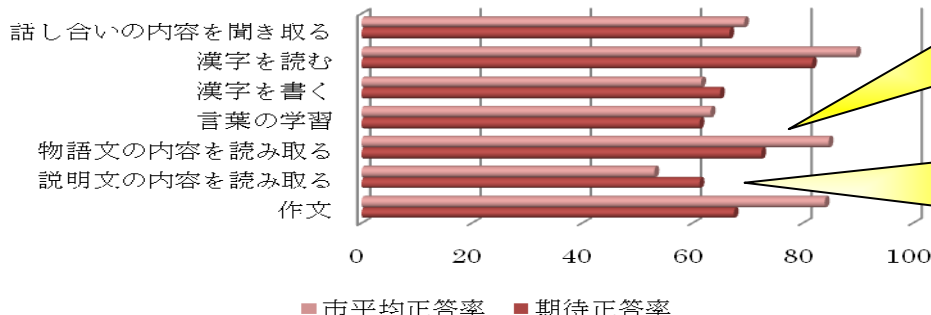
- ③段落は①②段落のまとめ
「初めの画面」→ 会場全体の様子 (①段落)
「次の画面」→ 大きくうつした選手の様子 (②段落)
- ⑥段落は④⑤段落のまとめ
④段落→アップの長所と短所
⑤段落→ルーズの長所と短所

「初めの画面」「次の画面」はどの段落の内容を指しているかを考えさせましょう。

「このように」に続く一文から、どんなことをまとめているか考えさせましょう。

国語科 小学校5年生

5年生の内容の正答率



I 物語文：叙述を基に想像して読む問題では、期待正答率を約 19 ポイント下回っている設問があります。

II 説明文：内容を大きくまとめて読む問題では、期待正答率を 25 ポイント下回っている設問があります。

◇分析◇

I 物語文

1 出題のねらい 物語の内容を読み取る 場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。

2 正答率が低い要因 (4- (1) 正答率40.6% 期待正答率60.0% (3) 正答率47.6% 期待正答率 65.0%)

設問だけを読んで問題を解こうとしているのではないか。文脈の中から登場人物の会話や行動を手がかりにして、その人物の心情を読み取る力が不足していると考えられる。

II 説明文

1 出題のねらい 説明文の内容を読み取る 目的に応じて、内容を大きくまとめながら読むことができる。

2 正答率が低い要因 (5-(3) 正答率35.0% 期待正答率60.0%)

各段落のキーワードをおさえ、段落相互の関係を意識して読み取る力が十分でないと考えられる。

◇授業改善例◇

物語文 登場人物の会話や行動、それらの前後の叙述に着目させましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 会話や行動、情景描写などに着目させ、登場人物の心情を読み取らせる。

～「わらぐつの中の神様」(光村図書5年下)の実践例～

めあて おみつさんの「雪げた」に対する思いを読み取る。

指示1 (2場面) 店の前にいた時の、おみつさんの雪げたに対する思いが分かる部分
に線を引きましょう。

- 反応
- 雪げたがほしくてたまらなくなりました。 ○ 「でも、きっと高いんだろうな。」
 - 「負けてくれと言ったって、とてもだめだろうしねえー。」
 - しばらくそこに立って、すい付けられたようにその雪げたをながめていました。
 - あんまり長いこと立っていたので 等

「おみつさん」
の人柄や暮らし
ぶりに関する叙
述にも目を向け
させて、「雪げ
た」への思いを
読み取らせまし
ょう。

指示1で線を引いた部分
が、次の発問を考える手掛
かりになります。

発問・指示2 『おみつさんは、しばらくそこに立って、すい付けられたようにその雪げたをながめていました。』とあります。この時、おみつさんはどのようなことを考えていたのでしょうか。」ノートに2～3行で書きましょう。

- 反応**
- なんてすてきな雪げただろう。自分には買えるねだんではないけれど、どうしてもあきらめられない。ほしくてほしくてたまらない。
 - きれいだな。かわいいな。でも、自分のこづかいではとても買えはしない。まけてくれないかなあ。無理だろうな。せめて、ずっとこうしてながめていたい。

説明文 まとめの段落に着目させましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 中心となる語や文をとらえてさせて、段落相互の関係をとらえさせる。
～「ニュース作りの現場から」(光村図書5年下)の実践例～

めあて まとめの段落1・2から、段落相互の関係を考えて文章全体を読み取る。

発問1 段落1・2は、どのような役割をもっている段落でしょうか。(P.37)

反応 ・筆者の一番言いたいことを表す。・全体のまとめ。

発問・指示2 報道スタッフが感じた驚きや疑問は、どのようなものですか。ノートに書きましょう。

- 反応**
- 驚き 富士山の訓練が初めて
 - 疑問 ①なぜ訓練がなかったか。
②なぜ訓練をすることになったか。

<1文目は段落2、3と関連していることに気付かせます。>

発問・指示3 2文目～4文目のキーワードは何で、どの段落と関連していますか。ノートに書きましょう。

- 反応**
- 2文目のキーワードは、「取材」「伝えたいこと」。段落4・5・6・7と関連している。
 - 3文目のキーワードは「材料集め」。段落8と関連している。
(※「インタビューやさつえい」という語に着目させて、段落8と関連することに気付かせます。)
 - 4文目のキーワードは「選ぶ」。段落9・10と関連。
(※「選ぶ」という語から、「編集」へ関連することに気付かせます。)

発問・指示4 4文目に「知って考えてほしい」とあります。番組を作っている人は見ている人にどんなことを考えてほしいのでしょうか。3～5行で書きましょう。

- 反応**
- 防災訓練が行われたことを知って、訓練の大切さを考えてほしい。
 - 普段から防災を意識し、どうすれば安全で安心な生活ができるかを考えてほしい。
 - ただ知るだけでなく、番組の内容から自分がすべき行動を考えてほしい。

まとめの段落1・2のキーワードとなる言葉をおさえながら、それぞれの段落に書かれている番組作りの過程で大切なことを読み取らせましょう。

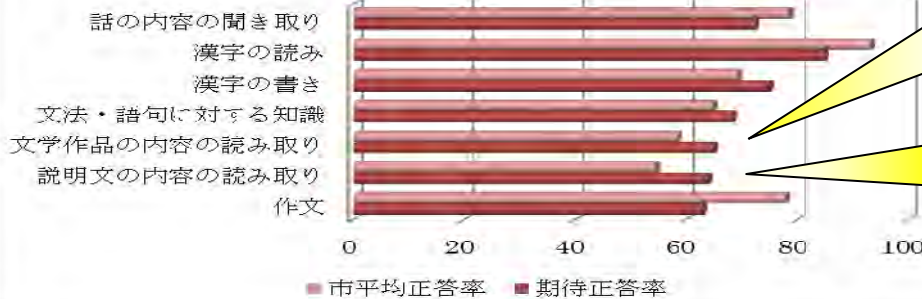
それぞれの文が前の段落に対応していることに気付かせることで、段落1・2が番組作りの過程、筆者の伝えたいことのまとめであることをおさえさせます。

発問の前に、段落1・2全体やそれぞれの文を繰り返し音読させ、内容を十分理解させることが大切です。

「知ってほしい」と「知って考えてほしい」を比較して、筆者の願いを考えさせます。

国語科 小学校6年

6年生の内容の正答率



I 物語文：登場人物の心情や場面の様子をとらえる問題では、期待正答率を20ポイント下回っています。

II 説明文：内容を的確にとらえる問題では、期待正答率を18ポイント下回っています。

◇分析◇

I 物語文

1 出題のねらい 登場人物の心情や場面の様子をとらえることができる。

2 正答率が低い要因 (5-(2) 正答率 47.8% 期待正答率 65.0%/5-(4) 正答率 39.7% 期待正答率 60.0%)

文中の言葉を手がかりに、登場人物の心情を読み取る選択問題、文章全体の内容をまとめる選択問題である。登場人物の心情を表す言葉を確認しながら気持ちの変化をおさえたり、問題文の選択肢と文中の言葉を対比させて読み進めたりすることができればよいと思われる。文中の言葉に即した読み取りが難しいと考えられる。

II 説明文

1 出題のねらい 文章の内容を的確にとらえることができる。

2 正答率が低い要因 (4-(4) 正答率 22.2% 期待正答率 40.0%)

二つの表現の違いを例示に従って、字数制限内で説明する記述問題である。無答は13.4% (誤答62.9%) と少なく、問題に取り組む努力はみられたのでないかと考えられる。

例示はあるものの、本文から文章を抜き出すだけでは字数におさまらず、読み取ったことを基に書き直す必要があった。読み取ったことを条件に合わせて書く力が十分でないと考えられる。

◇授業改善例◇

物語文 描写や叙述に即して読み取る学習を工夫しましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 文中の言葉に即して登場人物の心情や場面の様子を読み取らせる。

～「海の命」(光村図書6年下)の実践例～

めあて 太一の気持ちの変化を読み取り、「海の命」とはどのようなものか考える。

発問1 「水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。」
太一の気持ちが大きく変わるところです。太一の気持ちは、この前後でどのように変わったのでしょうか。

反応 ○ 瀬の主であるクエを殺そうと思っていたが、海の命である大魚を守ろうと思うようになった。

○ 父の敵であるクエをたおし、父をこえることが夢だったが、クエを生かすことが、おとうや与吉じいさと同じように海で生きることであると考えが変わった。

変化が分かるように、文中の叙述に沿って、変化の前後を比較して書かせましょう。

発問・指示2 「海の命」とはどのようなものだと考えますか。文中の言葉を使って書きましょう。

反応

- 太一がもりを突き出しても動こうともせず、おだやかな目で見えるクエ。瀬の主。大魚。
- 海に帰ったおとう。太一が「また会いに来ますから」といったおとう。
- おとうが「海のめぐみだからなあ」、与吉じいさが「千びきに一びきでいいんだ」と言って守っている、海に生きるすべてのものを表している。海で生きて海に帰るおとうや与吉じいさ、そして太一もまた海の命そのものであると思う。
- 千びきに一びきしかとらないことで、変わることなく守られる海のめぐみだと思う。太一やわたしたち人間が守っていかなければならない、ずっと続く幸せのことを表していると思う。

おとうや与吉じいさの「海」に対する考えが分かる叙述を基に考えさせましょう。子供たちの書いたことを基に、発表し合って、考えを深めていきましょう。

次時で、作者の伝えたかったことを考えさせましょう。「海の命」とは何か考えたことや、太一や与吉じいさの考え方や生き方から、作品に対する読みを深めましょう。人間の生き方を考えるきっかけにもなっていきます。

説明文 読み取ったことを条件に合わせて書く学習を工夫しましょう。

要因を踏まえた指導のポイント 読み取ったことを基に、条件に合わせて書かせる。

～「平和のとりでを築く」（光村図書6年下）の実践例～

めあて 要旨をとらえ、自分の考えを書く。

主語を指定することで、事実のみの要約ではなく、筆者の主張を表す文章を書かせましょう。

発問・指示1 筆者の主張を要約しましょう。キーワードとして「原爆ドーム」「平和のとりで（または言いかえた言葉）」を使い、「私たち人間は…」に続けて、3行程度で書きましょう。

反応

- 私たち人間は、原子爆弾の恐ろしさを伝える原爆ドームを残すことで、戦争をしてはいけない、核兵器を使ってはいけないという強い気持ちをもっていかなければならない。
- 私たち人間は、原爆ドームを見て、原子爆弾が人間や都市にもたらす惨害を忘れず、平和な未来をつくる強い意志をもつ必要がある。

実際に先生も要約文を書いてみましょう。子供たちの考えを評価するポイントが明確になります。

発問・指示2 筆者の主張に対する自分の考えを書きましょう。自分にとって「平和のとりでを築く」とはどのようなことだと考えるかをはっきりさせて、5行程度で書きましょう。

反応

- 平和を求めることは世界の人々の願いである。世界では、今でも戦争が続き、子供たちが地雷の犠牲になったり、家族を失ったりしている。戦争のない日本にいる私にとって「平和のとりでを築く」ことは、世界の戦争の現状を知り、平和について考えることだと思う。

自分なりの意見として、具体例を挙げながら書くよ、アドバイスをしましょう。

- ぼくにとって「平和のとりでを築く」ということは、まわりの人を大切にすることである。ぼくは、つい、友達を傷つける言葉を言ったり、家族にいやな思いをさせたりしている。身近なことで自分にもできることを一人一人が気を付けていけば、平和な社会ができると思う。